

授業概要

私たちが生きる社会の1つのベースである経済活動について、経済学の基本である「ミクロ経済学」「マクロ経済学」のそれぞれ入門に位置するところを学び、経済学的な思考方法を習得することを目的とする。前半ではミクロ経済学（個人・家計と企業の行動原理）の入門を学び、競争市場の効率性について理解を深める。後半ではマクロ経済学（一国全体の経済活動）の入門を学び、経済成長や景気変動、私たちの日々の生活にも直結しやすい雇用・失業について理解を深める。この一連の授業を通じて、大学で社会科学を学ぶ基礎固めとする。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（この科目で学ぶこと、授業の基本的な流れ、履修するうえでのルール説明）
第 2 回	経済学の原理と実践、経済学の方法と問い
第 3 回	最適化（最善をつくす）、需要・供給と均衡
第 4 回	ミクロ経済学(1) ミクロ経済学とは何か（企業と家計）
第 5 回	ミクロ経済学(2) 消費者とインセンティブ
第 6 回	ミクロ経済学(3) 生産者とインセンティブ
第 7 回	ミクロ経済学(4) 完全競争と見えざる手
第 8 回	ミクロ経済学(5) 貿易
第 9 回	中間試験
第 10 回	マクロ経済学(1) マクロ経済学とは何か（社会を俯瞰する）
第 11 回	マクロ経済学(2) 国の富、総所得
第 12 回	マクロ経済学(3) 経済成長
第 13 回	マクロ経済学(4) 雇用と失業
第 14 回	マクロ経済学(5) クレジット市場・金融システム
第 15 回	マクロ経済学(6) 景気変動
第 16 回	期末試験

到達目標

- ・大学 4 年間の学修のベースとなる基礎的な経済学（ミクロ経済学・マクロ経済学）を学び、大学生活だけでなく社会人生活でもその基本的な知識を活かすことができる。

履修上の注意

- (1) ふだんから経済に関わるニュースに関心を持つ
- (2) 第 3 回～第 8 回・第 10 回～第 15 回は授業冒頭に前回の授業内容を確認する小テストを実施する
- (3) 第 1 回にこの科目の方針などを説明するので、必ず参加されたい
(ただし、第 1 回参加を履修上の条件としない)

予習・復習

- ・復習：次回の小テストに備えて学習した内容を見返す（80 分）

評価方法

中間試験・期末試験（各 32%）、小テスト（各 3%＝計 36%）の合計 100%で成績評価する。ただし、出席回数（小テスト受験回数）が 10 回に満たない場合は成績評価されない。

テキスト

履修に必携ではない参考書籍を第 1 回に紹介する。